

■ ESG 投資の実務 (6h)

Session 1	徳田 展子	一般社団法人 日本投資顧問業協会 ESG室長
Session 2	黒田 一賢	モルガン・スタンレー-MUFG 証券 エグゼクティブディレクター
Session 3	横谷 宏史	ピクテ・ジャパン 執行役員 商品本部長
Session 4	林 寿和	Nippon Life Global Investors Europe Plc Chief Director

プログラム概要

世界的に ESG（環境、社会、企業統治）投資が拡大しています。日本でも、コーポレートガバナンスコードやスチュワードシップコードが制定され、2017 年には GPIF が 1 兆円の投資を発表し、拡大に向けた動きが加速しています。資産運用の実務においても、個別の議決権行使や建設的な対話の実施などの取組みが広がっていますが、本当に ESG 投資で中長期的にパフォーマンスを上げていくことができるのか？ 評価基準はどうなっているのか？ 今後、ESG 投資はアナリストやファンドマネージャーにどう強みをもたらすのか？ など諸々の議論も繰り広げられています。

本講義では、これまでの歴史的背景、最新動向、将来展望も踏まえながら、ESG 評価機関やアセットマネジメント会社における事例に基づいた実際の取り組み方について詳説します。資産運用会社の運用部門、企画や営業部門等のフロント、ミドル、コンプライアンスだけでなく、年金スポンサーを含む機関投資家、情報ベンダー／システム会社、監査法人など幅広い層の方々にお奨めするプログラムです。

Session 1 歴史と概要、ESG 投資を一步先に進めるためのヒント (90分)

1. ESG 投資の歴史と変遷 ～ 倫理・SRI 投資から ESG 投資へ
2. 投資家が抱える課題
 - ・ なぜ機関投資家は ESG 投資を行うのか
 - ・ ESG 投資を行ううえでの課題
3. 深化する ESG 課題に踏み込む
 - ・ リスクが潜むサプライチェーン
 - 人権問題
 - 水資源問題
 - 森林問題
 - 気候変動問題
 - ・ 水産業と畜産業における ESG 課題
4. 加速する企業の取組みと機関投資家の行動
 - ・ 重要視される統合報告書
 - ・ 活発化する企業と投資家の対話
 - ・ 様々なイニシアチブへ参加する企業と投資家
 - ・ 気候変動をめぐる動向
5. これからの ESG 投資との向き合い方
 - ・ インベストメントチェーンの各プレイヤーに期待される役割
 - ・ 制度化に向かう海外
 - ・ 広がる ESG 投資

Session 2 ESG 評価機関の取組み (90分)

1. ESG 評価機関とは
 - ・ ESG 評価機関の概要

- ・ これまでの発展経緯 ～ 欧州／北米／日本
- ・ 現在の世界的な勢力図

2. 評価方法・内容

- ・ 評価方法
 - 公開情報調査
 - 質問票調査
 - 不祥事調査
- ・ 評価内容
 - 環境／社会／ガバナンス／その他

3. ESG評価機関のサービス概要

- ・ 格付
- ・ スコア
- ・ 発行体評価レポート
- ・ テーマレポート

4. 評価の活用方法

- ・ ユニバース構築
- ・ インデックス組成
- ・ エンゲージメント
- ・ 議決権行使
- ・ グリーンボンド・ソーシャルボンドの発行体評価格付
- ・ SDGs 投資の視点

Session 3 アセットマネジメント会社の取組み I ESG債券投資 (90分)

1. 債券における ESG 投資概観

- ・ 投資家の立ち位置、ESG 投資の動機
- ・ パッシブ運用 vs スマートベータ運用 vs アクティブ運用
- ・ ESG 債券投資の種類と債券種別ごとの有効性
- ・ 信用格付けと ESG 評価

2. ESG 債（グリーンボンド等）投資

- ・ ESG 債市場の概観と特徴
- ・ サステナビリティ・リンク・ボンド
- ・ ESG 債投資の課題

3. 債券運用における ESG インテグレーション

- ・ ESG インテグレーションの目的と類型
- ・ ESG インテグレーションの実例（R-Factor）

4. パリ協定と気候変動投資

- ・ 気候変動投資における論点
- ・ EU 気候ベンチマーク
- ・ パリ協定準拠ベンチマーク（PAB）

5. 債券における ESG 投資の今後の展開

- ・ 開示規制をめぐる動向（SFDR）

- ・ 債券における ESG 投資の今後の展開

Session 4 アセットマネジメント会社の取組みⅡ ESG 株式投資 (90分)

1. 運用機関における ESG 評価

- ・ インベストメントチェーンにおける ESG 評価の実施主体
- ・ 運用機関と ESG 評価機関の役割分担の類型化
- ・ ESG 評価をデザインする ～ ESG 評価の目的とアプローチ
- ・ ESG 評価の多様性と情報ソース ～ 非財務情報開示の充実化
- ・ ESG 情報開示基準等の果たす役割と課題
- ・ コンピュータを用いたシミュレーション
- ・ 公開情報に基づく ESG 評価の留意点 (情報量影響、印象管理影響)

2. 運用機関における ESG インテグレーションの実際

- ・ ESG インテグレーションを理解するための 3 つの視点
 - 具体的にどのような ESG 要因をインテグレートしているか
 - どのような体制・仕組みによってインテグレートしているか
 - 運用プロセスのどの段階においてインテグレートしているか
- ・ ポートフォリオ構築段階における ESG インテグレーションの例
- ・ 企業価値評価段階における ESG インテグレーションへの期待と例
- ・ 株式アナリストによる投資推奨までの流れ
- ・ 予測のアプローチ ～ ESG 要因の影響を長期業績予想に織り込む

3. 運用機関におけるスチュワードシップ活動 ～ エンゲージメント、議決権行使

- ・ フォークキャストイング (予測) vs. バックキャストイング
- ・ 協働 (集団的) エンゲージメント ～ 海外の例
- ・ ゲーム理論に基づく分析からの示唆

4. インパクト投資の概要 ～ 上場株式投資を中心に

- ・ インパクトをより重視する投資 (インパクト投資) の潮流
- ・ 上場株式におけるインパクト投資